

●コミュニティフェスティバル in Autumn開催!

令和元年9月22日に開催した「コミュニティフェスティバル in Autumn」では、大勢の方にご来館頂き大変盛り上がりしました。

科学者ちきんのスペシャルサイエンスショーでは、終始笑いに包まれながら体の仕組みについて学ぶことができました。

瀧田勉先生によるワークショップでは、一人ひとり個性的な苔玉を作ることができたほか、papamamaサロンでは、リラックスした雰囲気の中で、子育てをする際の放射線に対する疑問などを相談することができ不安の軽減につながりました。



多くの来館者

●コミュニティ福島来館者30万人達成!!



令和元年9月22日に来館者が30万人に達し、記念のセレモニーを開催しました。

記念すべき30万人目のお客様は、郡山市からお越しの山形悠真くん(小2)です。家族4人でコミュニティフェスティバル in Autumnに参加するため来館されました。30万人目にあたり驚きと喜びを体いっぱい表していました。

セレモニーでは、くす玉割りを行い、渡辺良夫副所長より認定証と記念品(デジタル顕微鏡)の目録を贈呈しました。

●コミュニティ秋フェス開催!

令和元年10月6日に循環型社会への取組を啓発するイベント「コミュニティ福島 秋フェス」を開催し、3,600名を超える方々に御来館頂きました。

ホールでは元・学研「科学」『大人の科学』編集長の湯本博文さんによる講演会を開催! 科学実験や当時の学研の裏話を聞くことができ、子供はもちろん大人も大いに盛り上がりしました。

他にも、ビニール傘が生まれ変わるアートでリサイクル! 『世界に一つだけの「ビニール傘」をつくらう!』や「ペットボトルで顕微鏡をつくらう!」などたくさんのイベントはどれも大盛況でした。

駐車場ではMOTTAINAIフリーマーケット、会議室では、売るのも買うのも子どもだけのMOTTAINAIキッズフリーマーケットを開催しました。

最初は慣れない子供もいましたが、慣れるにつれて盛んに掛け声を出し、賑やかなものとなりました。

子供たちは、物を大切にすればかりでなくお金も大切に学ぶべきなのだと思います。



湯本博文さんの講演会



MOTTAINAIキッズフリーマーケット

「コミュニティサイエンスアカデミア」で“科学のあたま”を育てています!

Part 2

福島県の小中学生のための特別なサイエンスクラブ(全12回)です。科学が大好きな小学生19名・中学生12名が参加しています。

今回は、第7回から第10回までの取組みを紹介します。

〈Basic(小学生)クラス〉

第1回から第6回の活動で、さまざまな実験を通じて、見えないもの・放射線・再生可能エネルギーなどを学んだ子供たち。第7回から第10回では、1月の成果発表会に向けて、学んだことや伝えたいことをグループでまとめて、発信する準備を行いました。



〈Advanced(中学生)クラス〉

Advancedクラスでも、1月の成果発表会に向けて、これまで学んだことや伝えたいことを一人ひとりまとめて、発信する準備を行いました。

また、第9回の活動では、「親子バスツアー」と題して、東京都で開催されているサイエンスアゴラ2019と日本科学未来館の見学を行いました。



特設サイト(<https://com-fukushima.jp/csa/>)では、各回の活動の様子を発信していますので、ぜひご覧になってください。

「ふくしまサイエンスコミュニケーター養成講座」で科学的な視点から学んでいます!

放射線に関する基礎知識を習得し、原子力災害を経験した福島の状態を理解するとともに、それらについて対話を通じて他者に伝える能力を養成することを目的とした全11回の講座です。高校生から一般の方まで幅広い年齢層の21名が参加しています。

第6回の講座では、東京電力廃炉資料館と南相馬ソーラー・アグリパークの見学を行いました。

第7回、第8回の講座では、これまでの学びを科学的な視点から発信するためのプログラムを企画しました。

第9回の講座では、「spff屋台村 in コミュニティ福島」にブース出展し、来場者との対話を通じて、「ふくしま」の未来を考える機会を創出しました。



「理科自由研究発表会 at コミュニティ福島」を開催しました!

小学生の夏休みの宿題といえば「理科自由研究」。

その研究成果を広く発信するとともに、子供たちの科学への探究心を喚起すること、プレゼンテーション能力の向上を図ることを目的に、コミュニティ福島での発表会を令和元年12月8日(日)に開催しました。

参加者は、県内各地区から集まった精鋭55名。口頭とポスターで研究成果の発表を行いました。

発表会当日は、ホールの席が埋まってしまうほどのたくさんの来場者があり、子供たちはとても緊張した様子でしたが、発表が始まると徐々に引き締まった表情に。小学生ならではの素朴な疑問、自由な発想力はもちろんのこと、大人顔負けの実験・観察力・考察力など、『小学生はこんなすごい!』を体感できた発表会でした。

今回の経験が刺激になって、次の理科自由研究につながれば嬉しいです。

来年もコミュニティ福島でお待ちしています。



「福島県小学校理科作品展」を開催しました!

●開催日 12月7日(土)、8日(日)

県内15地区の理科自由研究作品展において、各学年代表者に与えられる「特選」を受賞したおよそ90作品を一室に集めて展示しました。

発表会との同時開催ということもあり、多くの方々子供たちの作品に見入っていました。



「コミュニティサイエンスアカデミア」と「ふくしまサイエンスコミュニケーター養成講座」の成果発表会を開催します。皆さま、お誘いあわせのうえ、ぜひご来館ください。

開催日 令和2年1月18日(土)

会場 福島県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」

コミュニティ福島ボランティアスタッフ募集中!

ご興味のある方はコミュニティ福島(0247-61-5721)までご連絡ください。



国立科学博物館巡回展 「琉球の植物」 in コミュニティ福島

開催期間 令和元年12月17日(火)~令和2年1月13日(月・祝)

○ 12月29日(日)~1月3日(金)は休館になります。

約200の島々が連なる琉球列島には多くの植物が分布し、日本で最も種の多様性が高い地域といわれている反面、最も絶滅危惧植物の集中する地域の一つもなっています。

この巡回展では琉球列島に生きる植物、そして植物と人々とのかかわりを紹介します。琉球列島に生きる植物を知り、生物資源と生物多様性の重要性を感じてください。

環境創造センターでは、福島県の環境回復・創造に向けて、「放射線計測」、「除染・廃棄物」、「環境動態」、「環境創造」の4つの部門(グループ)に分かれて、日々研究を行っています。
今回は環境動態(野生動物)グループの研究について紹介します。

福島県では、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故により飛散した放射性核種が環境中から移行することにより、野生動物の体内からも放射性核種が検出されています。このことは、野生動物への影響のみならず、狩猟鳥獣のような資源利用の観点からも問題となっているところです。そのため、環境動態(野生動物)グループでは、環境中から野生動物への放射性核種の移行メカニズムや野生動物中の放射性核種の動態について明らかにし、野生鳥獣対策に資するための調査・研究を行っています。

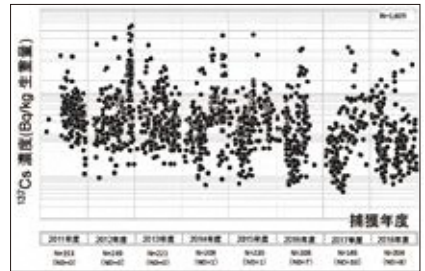
野生動物の体内に含まれる放射性核種濃度を調べています

有害鳥獣捕獲や狩猟により捕獲されたイノシシやツキノワグマなど、野生鳥獣の筋肉に含まれる放射性セシウム濃度を調べています。

これまで、放射性セシウムの土壌沈着量が多い地域ほど、筋肉中の放射性セシウム濃度が高いことが明らかになりました。また、筋肉中の放射性セシウム濃度は季節変動しており、イノシシやツキノワグマにおいては冬季に高くなる傾向が見られています。



野生のイノシシ



イノシシの筋肉中における¹³⁷Cs濃度の時系列変化

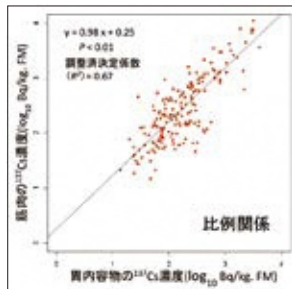
野生動物の食性を調べています

予想されるイノシシへの放射性セシウム(¹³⁷Cs)の蓄積



野生動物体内中の放射性セシウム濃度と食性との関係について調べています。また、胃の内容物のDNA調査も行っています。

これまで、胃の内容物の放射性セシウム濃度と筋肉中の放射性セシウム濃度は、比例関係にあることが明らかになっています。



イノシシの筋肉及び胃内容物中¹³⁷Cs濃度の相関

また、野生動物の食物として考えられる植物の放射性セシウム濃度を調べています。比較的、液果(ミズキ等)に比べて堅果(コナラ等)の方が放射性セシウム濃度が高いことが明らかになっています。

野生動物の行動を調べています

野生動物の行動パターンや利用場所についてGPS首輪を用いて調べています。また、避難指示区域やその周辺区域における狩猟鳥獣の生息状況を調べています。



GPS首輪



クマ捕獲用トラップ



捕獲個体

これまで、避難指示区域内のイノシシの行動圏が、避難指示区域外のそれと比べて、拡大する傾向が見られること等が明らかになっています。



イノシシの行動圏の一例

この他にも、県内における野生生物の移動分散スケールや個体群サイズの調査も行っています。

福島県環境創造センター

福島県の環境回復・創造に向けた「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」、「教育・研修・交流」の業務を行っています。
環境創造センターホームページより、県内市町村の空間線量、大気環境等のモニタリング情報を御覧いただけます。



福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」**入場無料**

TEL.0247-61-5721 FAX.0247-61-5727

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合、翌平日)・12月29日~1月3日
- 売店、キッズスペース、授乳室、和室(飲食可)もあります。

ホームページ <https://com-fukushima.jp/>



福島県環境創造センター コミュタン福島

田村西部工業団地内、ドームが目印です。

車をご利用の場合 磐越自動車道船引三春ICより約5分

電車をご利用の場合 JR磐越東線三春駅より車で約12分

三春町町営バスをご利用の場合 三春駅~環境創造センター(コミュタン福島)へ

コミュタン福島をご利用の方はバス料金無料 年末年始(12月31日~1月3日)を除き毎日(1日4便)運行